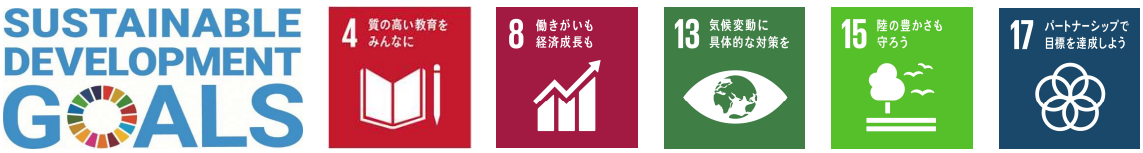
（仮称）富士山木のおもちゃ美術館
整備基本構想（案）





令和５年　月

御殿場市

第１章　基本的な考え方について
１－１（仮称)富士山木のおもちゃ美術館整備の必要性　・・・ 2

１－２ 基本コンセプト　・・・ 4

１－３ 基本プラン
（１）赤ちゃんから高齢者までが楽しめる「多世代交流の空間」・・・ 5
（２）「木育」の魅力を肌で感じる「体験の空間」　・・・ 6
（３）木の恩恵、知識、文化を知る「学びの空間」　・・・ 6
（４）子どもたちの感性や想像力を育む「遊びの空間」　・・・ 6
（５）「木育」を発信する「地域の活力が溢れる空間」　・・・ 6

第２章　建設地の在り方について
２－１立地と集客計画　・・・ 7

２－２ 施設設置場所
（１）樹空の森選定理由　・・・ 8
（２）観光戦略（富士山トライアングル）拠点　・・・ 8
（３）新築計画　・・・ 9

第３章　施設整備方針について
３－１ おもちゃ美術館の基本整備方針
（１）基本機能　・・・10
（２）オリジナル基本コンテンツ　・・・11
（３）インクルーシブなおもちゃ美術館　・・・12
（４）おもちゃ美術館周辺の「木育」検討　・・・12
（５）オリジナル空間とおもちゃ　・・・13
（６）基本コンテンツスペース　・・・16
（７）その他の遊び要素　・・・19

第４章　運営基本方針について
４－１ 運営の考え方
（１）運営理念　・・・20
（２）ターゲット層　・・・20
（３）運営方法　・・・21
（４）運営上の工夫　・・・21

４－２ 運営組織体制
（１）スタッフ(職員・会計年度任用職員・おもちゃ学芸員)構成・・・23

４－３ 運営方法
（１）入館料の設定　・・・24
（２）入館者数　・・・24

第５章　事業スケジュールについて　・・・25

１－１（仮称）富士山木のおもちゃ美術館整備の必要性

御殿場市（以下、「本市」という。）は、ＳＤＧｓの理念に基づき、森林資源の保全・活用、地域活性化、御殿場らしい人づくり等につながる「木育」を推進していくため、令和４年４月に「ごてんば木育推進宣言」を行いました。

「木育」は、木を植える活動だけではなく、「木と触れ合い、木に学び、木と生きる」ことから豊かな暮らしづくり、社会づくり、そして森づくりに貢献する人の育成を目指す活動とされていますが、その言葉の捉え方は地域によって様々であるため、将来にわたって市全体で「木育」を推進していくため、その道標となる「御殿場市木育推進基本構想」を策定しました。

本市の歴史や文化、自然環境や地理的条件、さらに大きく変化する経済社会情勢の中で、様々な課題に対応し、ＳＤＧｓ未来都市として持続的に発展していくためには、市域の約５６％を占める森林を有効活用し、地域の財産である「木」にスポットをあてた「木育」は大きな意義を有します。

「木育」は、富士山麓の自然環境の骨格をなす森林環境の整備・保全、林業振興と地域経済の活性化、環境教育の推進、水資源の涵養、防災機能の担保、脱炭素の推進など、本市が進める施策の核として、「御殿場らしい人づくり、まちづくり」に繋がる取組です。

特に、本市の森林のその多くは、木材として利用できる時期を迎えており、地域の木材を活用して、乳幼児から高齢者まで多世代に渡って本市の豊かな自然を感じられる持続可能な地域社会のため、今後も林業の振興を図りながら、木材を積極的に利用することが必要であり、住宅の建築はもとより、木を身近に感じ、普段の生活の中に木を取り入れてもらうため「木と触れ合い、木に学び、木でつながる」という観点から、木材の需要拡大を通じた森林の新陳代謝を促していくことが重要となります。



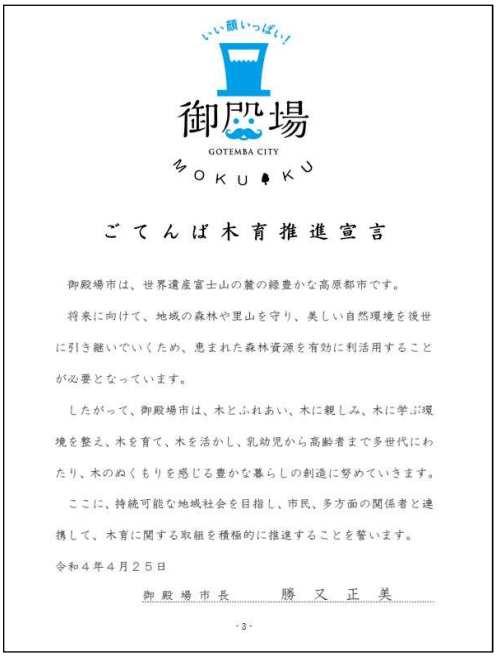
本市は、現在、森林整備の推進と環境保全を目指し、御殿場産木材「ごてんばっ木」を活用した出産祝い事業などによる地元木材のブランド化や、公共施設の積極的な木質化、官民協働による森林整備や環境教育など、地域木材で地産地消のサイクルを生み出し、協働による取組を推進することにより、本市ならではの取組を行っています。

さらに、教育活動においても、保育園・認定こども園での木育週間を設け、木のおもちゃで遊ぶ機会をつくりながら豊かな心の形成につなげる取組や、小学校の社会科学習では、日本の森林資源についての学びを深める等、本市における木育推進の土壌や「木育」に携わる活動を推進してきましたが、今後も、次世代の人材育成や、市民の生活の中に木がより身近になっていくことを目指し、様々な「木育」の活動に携わってきた人々が集いながら、これまで個々で行われてきた活動を結びつけ、さらに大きく発展させることができる場所が必要です。

このような状況の中で、地域木材の積極的な活用を促進し、市内外の多世代の人々が木に触れながら木材の良さや温もりを感じられるような新たな観光拠点として、「木育」の象徴になる 木製おもちゃ館（以下、「（仮称）富士山木のおもちゃ美術館」という。）を整備するものです。







いい眺いっぱい！
御殿場
GOTEMBA CITY
MOKUIKU

ごてんば木育推進宣言

御殿場市は、世界遺産富士山の麓の緑豊かな高原都市です。

将来に向けて、地域の森林や里山を守り、美しい自然環境を後世に引き継いでいくため、恵まれた森林資源を有効に利活用することが必要となっています。

したがって、御殿場市は、木とふれあい、木に親しみ、木に学ぶ環境を整え、木を育て、木を活かし、乳幼児から高齢者まで多世代にわたり、木のぬくもりを感じる豊かな暮らしの創造に努めていきます。

ここに、持続可能な地域社会を目指し、市民、多方面の関係者と連携して、木育に関する取組を積極的に推進することを誓います。

令和４年４月２５日

御殿場市長　勝又　正美

-3-

令和４年４月ごてんば木育推進宣言



Wood Start
ウッドスタート宣言

日本は、国土の約３分の２が森林に覆われている、世界でも有数の森林大国です。また、太古の昔から木の文化を持ち合わせている国でもあります。

しかしながら、現在、木材の自給率は３０％程度となっており、また、近年は森林、特に人工林の手入れ不足が問題化しています。

そこで、御殿場市と東京おもちゃ美術館は「ウッドスタート」を推進することで、この豊かな自然や身近にある木と触れ合うことにより、豊かな子育て／子育ち環境を整えるだけでなく、木の良さを知り、暮らしに木を取り入れることにより、国産材木製品の消費を増やし、そのことが日本の森を育て、守ることになるような循環型社会を構築することを目指します。

私たちは、ここに「ウッドスタート」を宣言し、暮らしの中に木を取り入れ、木の持つ可能性を最大限引き出し、それを子育て／子育ちに生かす取り組みを、協力し合いながら進めていくことを誓います。

2023年6月12日

御殿場市　御殿場市長　勝又　正美

×

東京おもちゃ美術館　館長　多田　千尋

令和５年６月東京おもちゃ美術館と連携する「ウッドスタート宣言」

Ⅰ－２ 基本コンセプト

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、『本市の豊かな森林資源を活かし、乳幼児から高齢者まで多世代に渡り「木育」を推進することによって、木のぬくもりを感じることができ、豊かな暮らしの創造に努め、木と共に成長すること』を基本コンセプトとします。

市内外から多くの人々が集い、木がもたらす文化や知恵を学び、遊びを通じて体験することでにぎわいを創出し、木に親しみ、体験から学ぶことで、生活の中に木を取り入れる契機となる施設とします。

市民活動として取り組んできた様々な木育活動の中核拠点として、幼稚園や保育園、認定こども園などの育児施設やクラブ等とも連携したコンテンツ企画立案はもとより、育児に関する相談機能や、木育に携わる人材育成機能を有する本市ならではの「木育のシンボル」となる施設を整備します。

市営のおもちゃ美術館というメリットを活かし、御殿場の歴史や文化、地域のブランド木材の発信拠点として積極的に活用し、本市の魅力を広く発信していきます。

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館については、全国の木育推進拠点において先駆的な取組を行っている認定ＮＰＯ法人 芸術と遊び創造協会（以下、「ＮＰＯ法人 芸術と遊び創造協会」という。）の総合監修のもと設置し、開館後は、全国にあるおもちゃ美術館の姉妹館と連携を図ることから、以下の点を重視し、整備を進めます。

•豊かな心を育む「遊び文化を伝える」

•地産地消の木材と人材の活用が生み出す「木育」

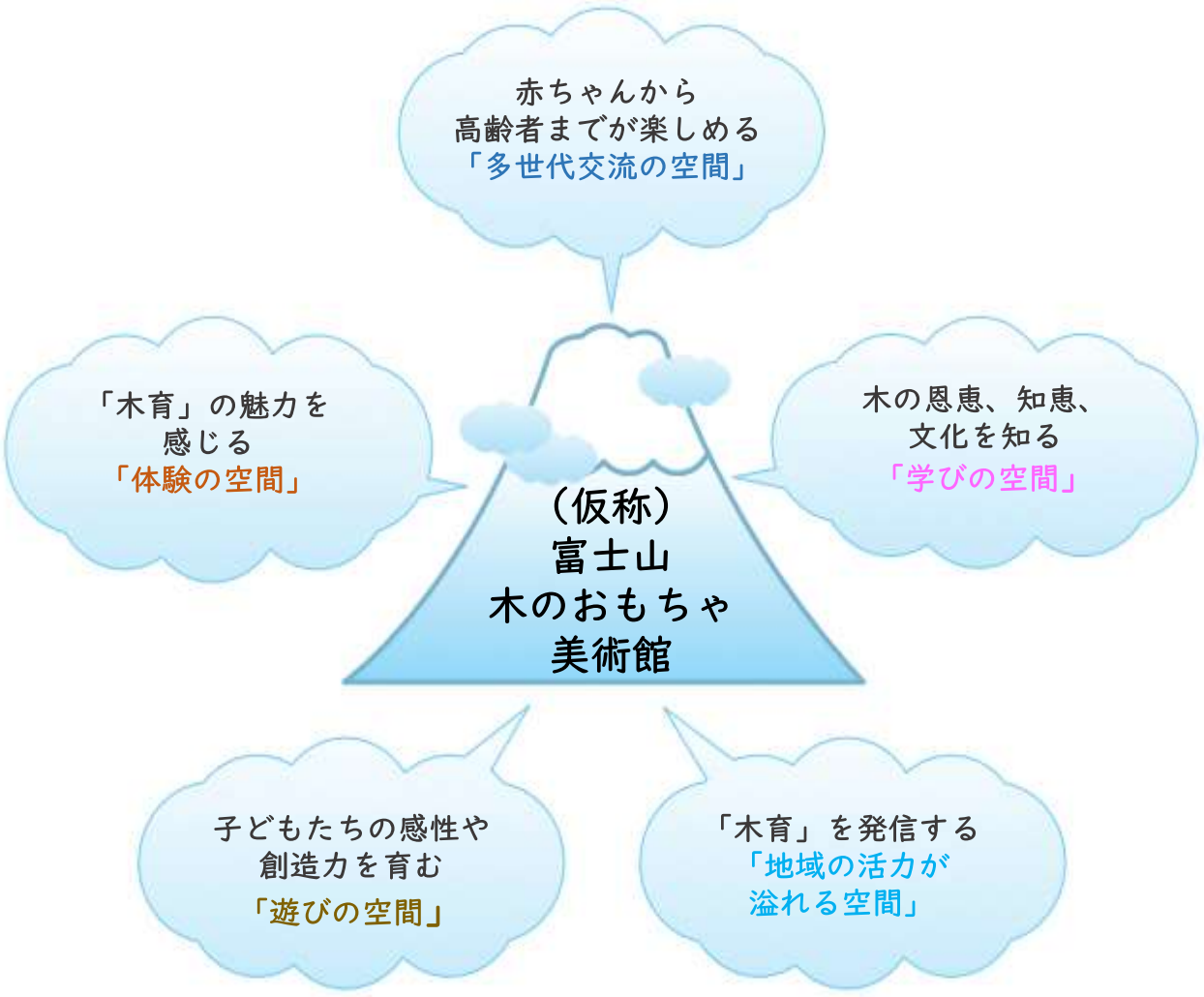
•地域の宝となる「観光資源」

•全ての人が文化を楽しむことができる「インクルーシブミュージアム※」

※インクルーシブは、「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）という言葉から来ており、インクルーシブミュージアムとは、人間の多様性の尊厳等を強化し、国籍や障害の有無に囚われる事なく、あらゆる立場の人の利用を前提として、誰もが自由に楽しめる美術館の意。

１－３ 基本プラン

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館が、本市の「木育」の推進施設としてふさわしい存在になっていくため、基本コンセプトを念頭に、次の５つの方針を軸にして、建物外観や内装、おもちゃ、什器等、様々な要素が融合した施設とします。



（１）赤ちゃんから高齢者までが楽しめる「多世代交流の空間」

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、地元ボランティアによって運営され、主に６０歳以上のシニアが絵本の読み聞かせや、遊びの伝道師として活躍をしていただきます。

訪れる乳幼児やその親、また、その上の世代も含め、多世代で集うことができる場であり、近年の人口減少や少子高齢化が進む日本社会においては、各家庭が孤立するような状態を緩和する「サードプレイス」（第３の居場所・空間）としての機能を提供します。

・幅広い世代で楽しめるおもちゃの導入
・おもちゃ学芸員との多世代交流

（２）「木育」の魅力を肌で感じる「体験の空間」

本市の地域木材をふんだんに活用した木質空間で、家族で木工を行ったり、御殿場の文化を反映させたオリジナルの遊具で体を使って遊ぶことで、肌で感じながら体感をもって本市の魅力を感じることができる施設とします。

館内では、子どもの想像力を広げる空間と、落ち着いた時間を過ごすことができる照明やラウンドの工夫をし、木のぬくもりやにおいを五感と体全体を使って体験できる空間とします。

・館内に並ぶ樹齢の異なる樹木
・地域材で作られた大型遊具

（３）木の恩恵、知識、文化を知る「学びの空間」

市営のおもちゃ美術館として、本市の森林資源や自然の恵みを発信する施設とし、オリジナル遊具やおもちゃの開発を行いながら、体験を通じて、富士山の恩恵や知識、人々の生活や文化を学び・知ることができる施設とします。

また、多くの人に木の魅力を知ってもらうことで木を取り入れた生活を推奨し、木を「つかう」意識を醸成します。

・地域木材をふんだんに活用してつくるオリジナルおもちゃ
・糸鋸を整備した「木工室」

（４）子どもたちの感性や想像力を育む「遊びの空間」

子どもたちの感性を刺激し、成長につなげる木のおもちゃを配置すると共に、一人で遊べるものから、大勢で楽しめるもの、また、コミュニケーションを促すもの、創作するものなど、多様な木のおもちゃに触れながら遊ぶことで、木の良さを感じ、感性や想像力を育む施設とします。

・さまざまな年齢で楽しめる空間とおもちゃ
・インクルーシブにも対応した良質なグッドトイ

（５）「木育」を発信する「地域の活力が溢れる空間」

地域木材の魅力を発信できる場であり、地域住民が木育活動を行える場となり、保育園・認定こども園で行っていた木育週間や、森林資源の学習等、様々な木育活動を推進している市民団体とネットワークを構築しながら、全国の姉妹美術館とも相互に連携することで、本市の木材の魅力を広く発信します。

・地域の木育活動と連携した取組
・全ての人が快適に過ごせ、再び訪れたいと思える施設

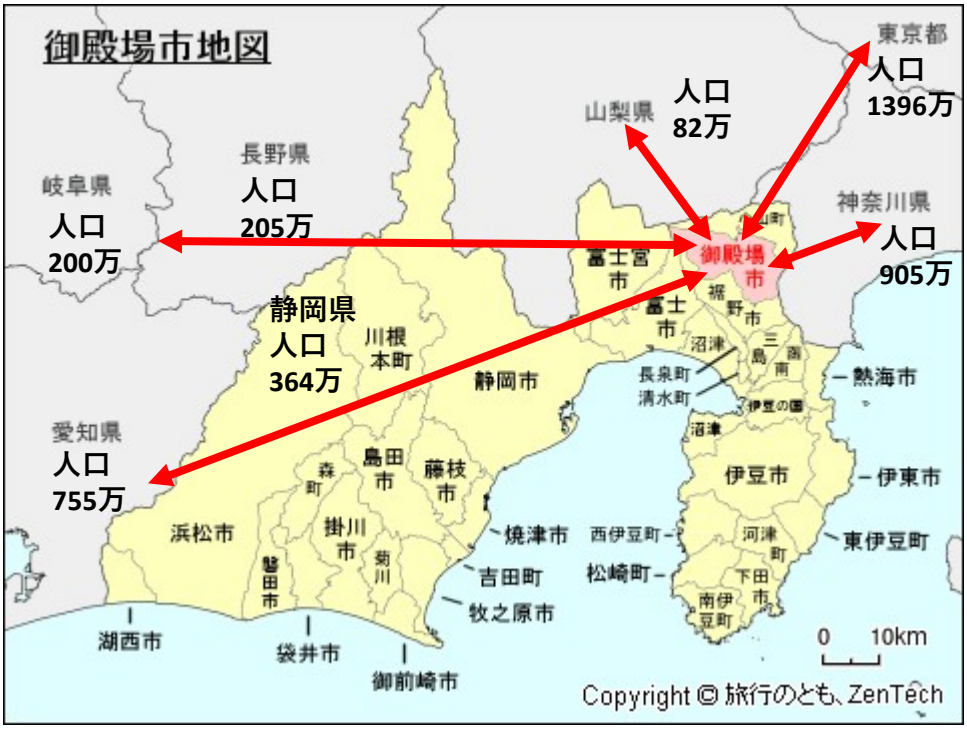
２－１　立地と集客計画

本市は、古くから日本の東西交通軸の要衝にあり、現在も東名高速道路・新東名高速道路や中央自動車道とも連絡する等交通の便に恵まれています。

２０２７年度には、新秦野ＩＣから新御殿場ＩＣを結ぶ新東名高速道路が繋がる計画であり、富士山交流センター(以下、「樹空の森」という。)は、新御殿場ＩＣから車で１０分の距離にあることから、首都圏から来る来館者にも利便性の高い場所となります。

その他にも県内他市町、東海地域（愛知県、岐阜県、三重県）からの来訪者にとってもアクセスが便利なため、関東圏のみならず、関西圏を含めた広域なエリアからの来館を見込んでいます。





２－２ 施設設置場所

（１）樹空の森選定理由

庁内検討委員会にて、「秩父宮記念公園」「新図書館隣接地」「けやきかん隣接地」「現図書館」等１５か所の候補地の中から、新たな観光拠点施設という視点を重視のうえ、「集客力」「立地」「建物の状況」等を基準に選定審査し、樹空の森はほぼ全ての点において高い評価を受けたことから、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館の設置場所として適しているという結論になりました。樹空の森は、基本コンセプトや基本プランを満たし、特に、都心からのアクセスの良さ、自然の豊かさ、富士山の景観の良さ、更には、冒険の丘(屋外遊具広場)やフォレストアドベンチャー・御殿場、パークゴルフ場や御胎内温泉健康センターなどファミリー層を中心に多世代をターゲットとした周辺の既存施設との連携による相乗効果や、駐車場利用ができるなど、大きな利点があります。

樹空の森敷地内やその周辺には、ファミリー向けコンテンツが充実 ▶

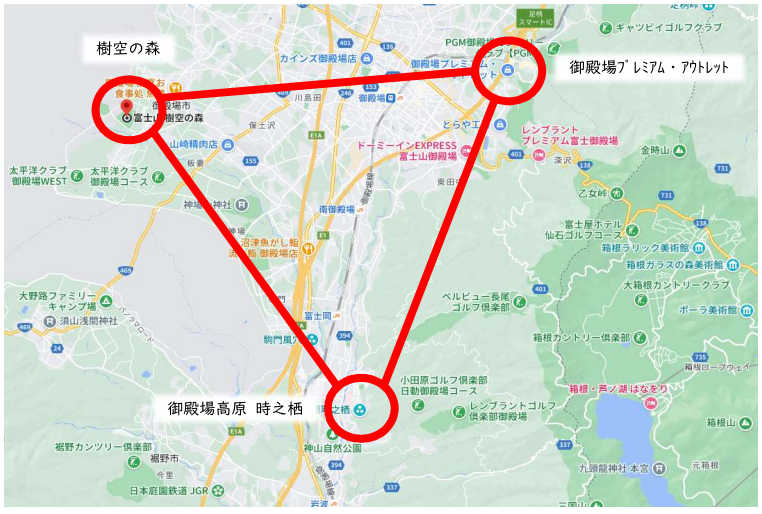


（２）観光戦略（富士山トライアングル）拠点

本市の観光交流客数は、御殿場プレミアム・アウトレットやアウトドア施設を中心に、年間約１，４００万人もの多くの観光客が市内外から訪れます。本市の観光戦略プラン（令和４年度～７年度）では、それらの誘客拠点で、ＩＴを活用した情報発信やプロモーション活動を強化し、樹空の森を含む市内の観光施設を回遊させる動線を活発化する計画を立てています。

特に、御殿場プレミアム・アウトレットと御殿場高原 時之栖への来場者を市内に誘導し、滞留を図っていくことが重要であり、この３点により線から面を形成して、市全域への誘導を図りながら、本市の活性化につなげます。

市内の主な誘客拠点（富士山ﾄﾗｲｱﾝｸﾞﾙ）▶



（３）新築計画

①改修での検討

当初、樹空の森内の既存施設(ビジターセンター)内の富士山天空シアターを内部改修し、木製おもちゃ美術館を設置する検討をしましたが、おもちゃプレイコーナー５００㎡以上（姉妹おもちゃ美術館ガイドライン面積）を設けると、既存の各エリアの確保が困難となり、樹空の森の本来の施設機能が損なわれてしまう可能性があるため、これまで培ってきた本市の事業や樹空の森の自主事業への影響が大きくなります。また、木製おもちゃ美術館と冒険の丘（屋外遊具広場）を利用する世代は近いため、ビジターセンター内に（仮称）富士山木のおもちゃ美術館を設置すると、対象世代のゾーニングが分断されてしまいます。さらに、改修工事期間中はビジターセンターを含め、樹空の森内の運営に影響が大変大きいため、設置場所を見直し、新築（別棟）とします。



▲樹空の森(ビジターセンター)



▲富士山天空シアター

②新築(別棟)での検討

新築（別棟）の建設予定地は、樹空の森敷地内やその周辺を含め、幾つかの候補地から、既存の第２駐車場南側敷地（いこいの森）内に建設します。

この場所の選定理由は、既存の屋外遊具がある冒険の丘と一体的に幼児～小学生のエリアとしてゾーニングを構築し、様々な相乗効果が図れることや、既存の第２駐車場を活用することができます。また、樹空の森以外の既存周辺施設との連携がとりやすく、富士山の眺望の良さや、車での来場者に（仮称）富士山木のおもちゃ美術館の位置が分かり易いなど、視認性にも利点があります。

新築（別棟）建設候補地



３－１　おもちゃ美術館の基本整備方針

（１）基本機能

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、多世代に渡る地域住民と子ども達が積極的に関わることで、次の３つの力を育む機能を果たします。



▲木質化空間、地域の食材を木材玩具で表現

①文化創造力

（地域文化継承機能・木育推進機能）

本市には、世界文化遺産である富士山を筆頭に、壮大な自然の風景や人々の暮らし、高原都市特有の環境があります。

御殿場ならではの風景や文化を良質なおもちゃや木育空間で表現することで、訪れた来館者が本市の自然文化の魅力や、歴史を「五感」で学ぶことができる施設とします。



▲五感で楽しめる体験型遊具

②住民関わり力

（地域活性化機能・コミュニティづくり機能）

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、子育てや芸術教育、環境教育など様々なテーマから、人が集まれる木育活動のプラットフォームを実現します。

地域住民が自ら運営にも関わることを基本とし、主体的な木育活動を推進していく中で、おもちゃ美術館を軸としたコミュニティづくりを行っていきます。



▲「一口館長制度」の寄付者サポーターズボード

③地域福祉力

（生涯学習機能・多世代交流機能）

子育て支援からおもちゃと遊びの力を活かした高齢者福祉まで、世代を超えて「福祉力」を発揮する場を提供します。

また、地域共生社会の中で、多世代交流を促進し、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりに貢献し、シニア世代が館内の運営やボランティアなどに、積極的に関わり、活躍できる場をつくることで、生涯学習や生きがいづくり、健康長寿促進にも寄与していきます。



▲遊びを通じた多世代交流



▲高齢者も夢中になれる遊びがあります

（２）オリジナル基本コンテンツ　～館内の遊具や空間デザインコンセプト～

館内に設置するおもちゃや遊具、木育空間は、樹空の森から見える壮大な富士山を活かし、「美術館に訪れた全ての子ども達と大人が、富士山の力で満たされ、心身共に元気になること」を念頭に、次の３つをデザイン化することを検討していきます。御殿場ならではの物語と学びや遊びの機能を充実させます。

豊かな自然に包み込まれるような空間
すべてのこどもたちに、体験から「木育」を伝える

①富士山と自然

本市は、富士山の自然豊かな恵みを受容する一方で、噴火の被害を受けた歴史がある場所でもあります。市内の至るところに、噴火当時の威力を感じられる場所があり、中でも国の天然記念物に指定されている駒門風穴は、約１万年前に噴出した溶岩流が作り出した富士山麓最大級の溶岩洞窟です。また、御胎内清宏園には、約１,５００年前に噴出した溶岩流が樹木を巻き込んで形成された「御胎内」と呼ばれる溶岩洞窟があり、それらが散策道の脇にパブリックアートのようにおかれています。このような風景は、御殿場ならではの風景であり、木育空間や遊びの中に活かすことを検討していきます。

②富士山と文化

江戸時代、富士山は信仰の山として人気を博し、大都市を中心に富士講と呼ばれる集団が数多く作られ、夏山の時期には多くの登山者が山麓に押し寄せました。当時、御殿場が起点となる登山道はありませんでしたが、周辺には冨士浅間神社（小山町須走）から山頂に至る「須走口登山道」や須山浅間神社（裾野市須山）から山頂に至る「須山口登山道」があり、富士山麓の交通の要衝であった本市はこれらの登山道を目指す人々で賑わったそうです。明治時代に入ると、御殿場でも登山道が開かれ、東海道線開通と御殿場駅開設も相まって、富士山を目指す多くの登山者が全国から集まり、御殿場は、富士山を望むことができる保養地として、外国人や政財界の著名人が別荘を構えるようになりました。そこで、本市周辺の歴史や文化を含めて、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館の空間や遊びの中に活かすことを検討していきます。

③富士山と生活

かつて、御殿場の人々にとって馬は欠かすことのできない重要な家畜でした。農作業から人や物の輸送に至るまで大活躍し、現代で例えるならば軽トラックのような便利な存在であるとともに、ありがたい存在として家族同然に大切に扱われたそうです。よって、亡くなった馬を弔う馬頭観音の石像が市内各地に残っています。生業以外の場面においても、富士山における人や荷物の運搬、御殿場駅前を起点に山梨県方面への人流・物流の重要な交通手段となっていた御殿場馬車鉄道、旧陸軍が設けた演習場や廠舎（兵舎）における軍馬から、草競馬の歴史、現在の乗馬クラブや馬術スポーツセンターの立地など、馬との縁は非常に深いものがあります。このような土地柄であるからこそ、歴史的背景や食文化をオリジナルおもちゃとして表現し、遊びの中に活かすことを検討していきます。

（３）インクルーシブなおもちゃ美術館

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館を利用するすべての人が快適に過ごせ、再び訪れたいと思える施設づくりに取り組みます。段差などの物理的なバリアの解消だけでなく、安心感をもって滞在できる心理的なバリアフリーを目指します。また、市営の（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、すべての子どもたちに開かれた場所であるべきだと考えます。

特に、病気や体が不自由なために、富士登山できない子どもや高齢者にも、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館に来場すれば、富士山を体感することができる空間でありたいと考えます。

御殿場という名称の由来にもあるように、徳川家康が駿府と江戸を行き来する際の休憩処でもあった御殿場で、(仮称)富士山木のおもちゃ美術館をすべての人たちにとって、「癒し」の場となるような施設整備を目指します。

障害児や医療ケアを必要する
子どもたちと遊びを共有 ▶



（４）おもちゃ美術館周辺の「木育」検討

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、樹空の森敷地内で「木育」のシンボル的な施設として独立性を持ちながらも、樹空の森に訪れた来場者に対し、既存施設と（仮称）富士山木のおもちゃ美術館を繋げ、施設の一体性や回遊性をもたせるために、各施設間を繋げるような空間デザイン（ランドスケープ）を検討します。

既存の遊歩道沿いや駐車場から（仮称）富士山木のおもちゃ美術館前までの動線に、美術館へと続く「木育」の小道（無料ゾーン）などの整備を検討し、その空間デザインの効果により「木育」についての認知を広げ、入館前から森林浴や木々の名前を学ぶことができるような仕掛けも検討します。

また、近年、ペットを飼う一人暮らし世帯や家族世帯は増加し、ペット同伴での外出は今後も年々増加する傾向にありますが、現在、樹空の森の屋外エリア（芝生ふれあい広場を除く）はペットと共に楽しめるため、ペット同伴を許容するエリアの充実などを図り、美術館の話題性やターゲット層の拡大を検討します。







▲事例：美術館周辺の空間デザイン（ランドスケープ）▶

（５）オリジナル空間とおもちゃ

①御殿場市の文化的景観をおもちゃや「木育」の空間で表現

御殿場市の文化的景観

富士山



富士山は日本一の山であり、その姿は勇壮です。葛飾北斎の富嶽３６景で描かれたように季節や見る場所によって、見え方が異なるので面白いです。
特に、富士雲の形には名前があり、麓の住民たちは、雲の形をみて、一日の天気を予測した文化があることから雲を見立てた遊びを検討します。





馬車鉄道





御殿場馬車鉄道は、地元の有志らが設立した株式会社によって運営され、幹線鉄道からはずれた内陸地域を結ぶ簡易的な鉄道として、地方交通の重要な役割を果たしたため、その文化の再現を検討します。



▲貨車１台につき、馬１頭で引かれた



▲復元された馬車鉄道の木造車体

②地域の自然景観を「遊び」や玩具で表現

富士山の噴火によってできた自然景観

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館が新設される場所は、富士山噴火の影響を受けた場所です。
噴火時に流れ出た溶岩流によってできた溶岩洞窟や様々な形に削られた岩々、溶岩樹形がパブリックアートのように原形をとどめて残っています。
国の天然記念物に指定され、富士山麓最大級の溶岩洞窟の内部を散策しているようなトンネル遊びを検討します。





▲溶岩洞窟などの景観は、木のトンネルや形状で表現を検討





▲ごつごつした溶岩は、積み石つみきで表現を検討

③インクルーシブなミニチュア富士を施設のシンボル表現

富士山信仰／伝承遊び

ミニチュア富士







▲車椅子でも登れる幅を確保し、障害のある人や高齢者でも付き添いの方といっしょにミニチュア富士山に登れるような設計を検討します。

富士塚は、富士信仰に基づき、富士山に模して造営された人工の山や塚のことです。

江戸時代には、都内でも５０か所を超える富士塚が造設されましたが、現在は老朽化等で、立ち入り禁止となっている富士塚が多く、珍しい存在です。

登山道に見立てた道を、富士山に登る思い入れを込めて登れば、神々しく有難く、霊験あらたかであるともされており、富士信仰の文化の象徴でもあります。

なお、富士登山の期間は、7月上旬から9月上旬と短いことから、いつでも、だれでも御殿場ミニチュア富士山に登れるコンセプトは魅力的であると考えます。

また、車椅子の方でも、高齢者でも富士登山ができる富士塚は、インクルーシブ美術館のシンボルとなりえる存在となります。

山小屋風プレイハウス









木育空間には、キッズサイズの山小屋の設置を検討します。
山小屋の中で、独楽やけん玉など伝承遊びができるスペースを設けるだけでなく、登山の一休みの場所として検討します。



▲回すと富士山が出現する独楽など、日本各地の独楽が集まる山小屋を検討します。

④御殿場や静岡県を象徴するコンテンツを遊具化検討

伏流水の恵み

本市は、富士山の雪解け水や豊かな伏流水に恵まれ、日本一綺麗な水で知られています。水量が多く、常に流れている伏流水のおかげで、春から秋にかけては稲作を、冬の間は水かけ菜を育てる二毛作を行っています。御殿場ならではの食材を活かした収穫体験ができる遊びを検討していきます。

山葵





水かけ菜(とうな)



米(こしひかり)



郷土料理・みくりやそば



綺麗な水と山芋をつなぎとし、鶏肉・人参・しいたけの具材入りつゆで食べる「みくりやそば」は、お祝い事やおもてなしをする料理として古くから食べられています。

ビール・ウイスキー類



ウイスキーの樽は厳選された木材で職人によってつくられており、綺麗な水だからこそできる蒸留酒をつくる工程や作業道具を、遊びの中で検討します。

静岡県の恵み

フルーツ



クラウンメロン



石垣いちご



みかん

野菜



火山灰でよく育つさつまいも

静岡茶



富士の裾野に広がるお茶畑

静岡おでん



静岡のＢ級グルメ

（６）基本コンテンツスペース

おもちゃ美術館は、５つの基本コンテンツスペースを特徴としています。

①良質なおもちゃの普及



芸術と遊び創造協会が主催する「グッド・トイアワード」で選ばれた良質なおもちゃのみを展示した空間です。各おもちゃは、手に取って遊ぶことができます。

②赤ちゃんからはじめる木育推進



０～２歳児を対象とした遊びの空間を設け、赤ちゃんとその保護者が心地よく過ごすことができます。赤ちゃんの初めてのおでかけの場所として、多くの遊びを体験できます。

③おもちゃの文化継承



１００カ国１５万点以上にも及ぶ収蔵品から厳選されたおもちゃを展示スペースです。伝統的なおもちゃから、世界のおもちゃまで、珍しいコレクションに出会うことができます。

④おもちゃの創作体験



紙コップやストローなど身近な材料を使った手作りおもちゃワークショップや、電動糸鋸を使った木工体験を通じて、おもちゃの仕組みやモノづくりのプロセスを自分で考えて創ることを学びます。

⑤伝承遊びの普及啓発



独楽やけん玉など日本各地で親しまれている伝承遊びを紹介します。紐で回す独楽や、けん玉の５連や１０連などチャレンジできる遊びを紹介します。また、世界のボードゲームやテーブルサッカーといった歴史ある遊びも紹介します。

①良質なおもちゃの普及

館内には、芸術と遊び創造協会が選定する良質なおもちゃを取り揃えた専用ルーム「グッド・トイ」展示室を設置します。

毎年、芸術と遊び創造協会の定める基準（３つの指針と６つのポイント）を基に、遊びの専門家であるおもちゃコンサルタントが投票し、「グッド・トイ」が選出されていますが、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館のグッド・トイ展示室にも、グッド・トイとして認定を受けたおもちゃを設置します。

歴代の林野庁長官賞、グッド・トイ大賞をはじめユニバーサルデザイン賞等、子どもや大人も楽しめるおもちゃは、すべて手に取って遊びことができ、心を育む優良玩具の普及にも寄与します。





▲参考イメージ：「グッド・トイ」展示室

子どもにとって安全で、長く遊んでもらえるおもちゃを毎年選出しています。▶
コミュニケーションを促す玩具やユニバーサルデザインのおもちゃ等、大人もほしくなるおもちゃがたくさんあります。

②赤ちゃんからはじめる木育推進

全国の姉妹おもちゃ美術館と同様に、０歳～２歳児とその保護者専用の木育ルームを設置します。平日の午前中は、幼稚園・保育園等に通う前の未就園児が集客のメインターゲットとなっており、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館においても、木に触れ、地域資源に触れる空間を整備していくことは必要不可欠です。

木育ルームは、赤ちゃんにとって十分な広さを確保し、安心してハイハイやつかまり立ちが楽しむことができる空間としますが、対象年齢の設定や、年齢・発達に合わせた空間デザインや玩具・遊具を配置することで、親子で安心して遊ぶことができる空間とします。

さらに、赤ちゃんだけでなく、大人も安らぐ空間設計にすることで親子共に木に親しみ、心を育む場として整備し、本市のオリジナル遊具の導入も積極的に検討します。







▲参考イメージ：赤ちゃん木育ひろば

木育空間デザインで、赤ちゃんだけでなく、大人もゆったりした気分になれる。未就園児の入場に制限することによって、０歳児でよちよち歩きの赤ちゃんも安心して遊ぶことができる場所となる。▶
調査によると、大人が携帯を見る時間が大幅に減り、子どもと向き合える空間となっている。

③おもちゃの文化継承

芸術と遊び創造協会がコレクションする世界中のおもちゃは約１５万点あり、１００カ国以上の国から集まってきた玩具をアーカイブします。

特に、日本各国の歴史的にも価値のある玩具は、国内のみならず、海外の人々にも楽しめる展示物となっていることから、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館でもこれらのコレクションを展示し、世界へ発信するおもちゃの文化継承を行っていきます。御殿場に伝わる遊びに加え、おもちゃの文化継承に繋げます。



▲参考イメージ：世界のおもちゃ展示スペース







▲

ガラスケースに入っている展示物も、来館者の希望に応じて、遊びの専門家であるおもちゃ学芸員が遊び方を見せてくれる。
アーカイブしているおもちゃは、１００ヶ国以上の国から集まってきた玩具であり、世界中の家庭で遊ばれてきたおもちゃが厳選されています。

④おもちゃの創作体験

木と共に暮らしを育んできた日本人にとって「木工」というのは、極めて高い文化的価値があり、日本全国様々なところで家づくりや伝統工芸品を通じ、その技術力の高さを磨きあげてきました。

また、今こそおもちゃは買って与えられるものになりつつありますが、かつては身近にあるもので作るのが一般的でした。

全国の姉妹おもちゃ美術館では、芸術と遊び創造協会が培ってきた芸術教育のノウハウを活かして、手作りおもちゃのワークショップを開催し、その体験を通じて、自らおもちゃを作り出し工夫する楽しさや、道具の使い方の学びの機会を提供しています。

素材となる材料は、普段の生活の中で身近なペットボトルや、牛乳パックを利用し、身近なものからおもちゃが産まれる楽しさを体験できます。

さらに、施設内に電動糸鋸を配備し、木の文化継承や、「木育」、糸鋸マイスターの養成等を目的とする「いとのこ体験エリア」を設置します。

市内外で活躍する木工・家具職人を講師に招き、地域木材を使ったワークショップを行うなど、地元人材の活躍の場と、文化を発信する機能を併せもつ空間を整備します。



▲木工室は作業風景が部屋外から見えるデザインを検討







▲制作風景



▲電動糸鋸を導入予定

⑤伝承遊びの普及啓発

独楽やけん玉は、全国にある伝承遊びの代表であり、その種類は多岐に渡ります。

独楽は幼児以上の指の運動や手の運動を促すエリアとして構成し、世代間交流や高齢者にとっても興味を持ってもらえるユニークなプレイゾーンとして整備します。また、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館においても「独楽の達人」となるおもちゃ学芸員を養成し、名物エリアとして人気を高めます。

けん玉は、人気のある５連や１０連といったチャレンジング要素のあるけん玉を検討し、達成したほとんどの人が記念撮影をし、ＳＮＳへあげる傾向があることから、達成したチャレジャーへ賞状や記念品を贈呈することにより、さらにチャレンジ精神を促すような試みを検討します。



▲参考イメージ：こまのこや



◀回すと富士山が見える富士山独楽
海外の人々には、お土産として人気が高い



▲参考イメージ：Instagramへの投稿写真

（７）その他の遊び要素

◆インクルーシブ・トイ

通常のデザインに優しさを追加し、体に障害がある子どもが、親子で楽しめます。
（遊びのむしシリーズ）





◆遊びの三次元化・大型化

通常は卓上で遊ぶものを壁面化するなど、デザイン配置を変更することで、幅広い遊びが楽しめます。



◆進化版おままごと

収穫→販売→調理→食事までをワンストップで楽しめる「生活」をデザインしたおままごとや、そばや寿司など、「空間」を含めて設計されたキッズサイズのおもちゃを提供します。





◆感性を刺激する芸術品

おもちゃでありながら熟練の職人の手によって作られた「本物」を提供し、世代を超えて愛されるおもちゃ美術館にします。





４－１　運営の考え方

（１）運営理念

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、「木と触れ合い、木に学び、木と生きる」ことから豊かな暮らしづくりや社会づくり、そして「木育」の精神を育成することを目的としており、その趣旨を十分に理解した上で、赤ちゃんから高齢者まで多世代の方々が集う施設とすることから、安心・安全はもとより、「遊び」「体験」「学び」を通じて、来館者に「感動」「共感」「楽しみ」「喜び」から豊かな感性を養い、「木育」の輪が広がるよう運営を行う必要があります。

（２）ターゲット層

平日は、市内・近隣エリア在住の乳幼児連れ親子や、幼稚園や保育園等の遠足などをメインターゲットとし、土・日・祝日には、市内を含め、市外及び県外・国外からの観光客や親子・ファミリー層をメインターゲットとします。

樹空の森敷地内にあるアトラクションやイベント等、市内の大型施設や近隣施設とのコラボ企画などを通し、対象となるターゲット層の幅を拡張しながら運営を展開していきます。

平日

メインターゲット

- **市内・近隣エリア在住の乳幼児連れの親子・家族**
- **幼稚園や保育園等の遠足**



平日昼間は、市内や近隣エリアから来る乳幼児連れの親子や家族、幼稚園・保育園・学童クラブ等の遠足が主なターゲット層となります。

サブターゲット

- **ショッピングモールや総合レジャー施設に来る観光客**
- **国内外のツアー団体観光客**

館内運営に比較的余裕が生まれることが想定される平日においては、メインターゲット以外にも、周辺エリアを目的に訪れた観光客の立ち寄りを誘導します。
樹空の森エリア内のアトラクション等や周辺施設と連携し、観光客の回遊を促進します。

土・日・祝日

メインターゲット

- **市内及び近隣市町の共働き世代**
- **首都圏や東海エリア等広域エリアからの乳幼児連れ親子**
- **ショッピングモールや総合レジャー施設に来る観光客**
- **国内外のツアー団体観光客**
- **ペット連れのファミリー層**



御殿場プレミアム・アウトレットや御殿場高原 時之栖等のレジャー施設と、樹空の森のエリアを誘客拠点とし、連携した広報活動することで（仮称）富士山木のおもちゃ美術館への来館を促します。特に、週末や祝日及び大型休暇期間は、首都圏をはじめ、国内外の広域な範囲からの家族連れやツアー団体観光客なども来館が見込まれるため、大きな集客の柱として積極的に集客を図ります。

（３）運営方法

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館の運営は、木育に精通していることはもとより、赤ちゃんから高齢者まで様々な世代の方が来館するため、子育てや福祉の知識・ノウハウを必要とするほか、数多くの木のおもちゃや木製品の手入れやメンテナンスを行うことや、多くのボランティアスタッフを導入するなど、各々の専門的な知識や経験、運営能力、経営のノウハウが必要となります。

本市としては、施設運営を効果的に発揮する上で、将来的には民間事業者(団体)が有する知識やノウハウを積極的に活用し、市民へのサービス向上を目指す「指定管理者制度」を導入することが最適であると考えていますが、開館から当面の間は、本市の直営にて運営を検討し、軌道にのった段階で指定管理者に運営を引き継ぐ予定です。

（４）運営上の工夫

①姉妹おもちゃ美術館としての運営効果

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、おもちゃ美術館の姉妹館として、毎年、全国おもちゃコンサルタントが認定するグッドトイを無料贈呈されるほか、木のおもちゃの作家展をはじめとする企画巡回展の開催や人材育成の支援を受け、全国の姉妹おもちゃ美術館と連携を図ります。



全国の姉妹おもちゃ館は、現在１２カ所（２０２３年７月末現在）
各おもちゃ美術館は、地域それぞれの文化が生かされた独自性の高い美術館として運営されています。

②ボランティアスタッフ(おもちゃ学芸員)の活用

高校生・大学生のボランティアや子育てサークルなどの若い世代をはじめ、アクティブシニアや幼稚園教諭・保育士経験者など、地元のみならず、市内外からの様々な方々に豊かな出番と楽しみを体感できる場を提供し、(仮称)富士山木のおもちゃ美術館のスタッフとして活躍していただきます。

「遊びの伝道師」であり、美術館を共に創る「おもちゃ学芸員（地域ボランティア）」は、おもちゃ美術館の最も重要な人財です

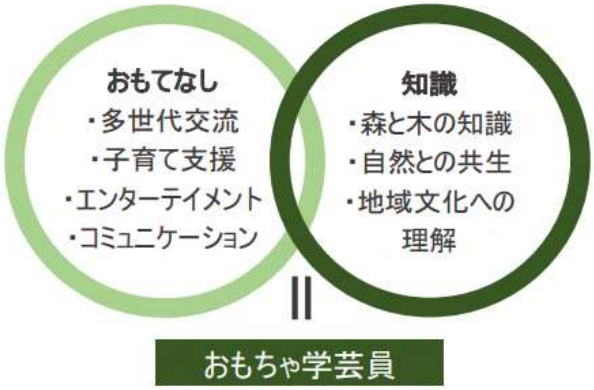
（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、木の魅力や地域文化をおもちゃや遊びを通じて、「木育」の空間を楽しむことで伝える美術館です。

そこで、「伝道師」となるおもちゃ学芸員には、地元の木に対する知識と地域文化を知るだけでなく、世代をこえた来館者をもてなす「ホスピタリティ」が求められます。

よって、美術館設立に向け行う様々なプログラムを提供して知見を高め、開館時には１００名以上を目標に、おもちゃ学芸員のコミュニティを創出します。

ＮＰＯ法人 芸術と遊び創造協会の学芸員養成プログラムのノウハウに加え、館内での活動に必要な「おもちゃ学芸員養成講座」を開催し、おもちゃ美術館の理念や考え方を引き継いだボランティアスタッフの養成を行います。

なお、おもちゃ学芸員の資格取得後も、各種講座やサークル活動への参加特典を付与し、美術館をプラットフォームとした継続的な参加を促すことで、ただのボランティアにとどまらない生涯学習の学び舎としての機能を維持します。





▲開館前に、おもちゃ学芸員と共に出発式を開催予定

③情報発信

(仮称)富士山木のおもちゃ美術館のＨＰを制作し、ＳＮＳを活用した情報発信はもとより、本市や樹空の森を含めた関連団体とのＨＰのリンクやグループ化を図るなど連携を図ると共に、施設整備や運営に多くの方に携わっていただくことで施設の認知度を上げ、集客力や収益力に繋げていきます。

４－２ 運営組織体制

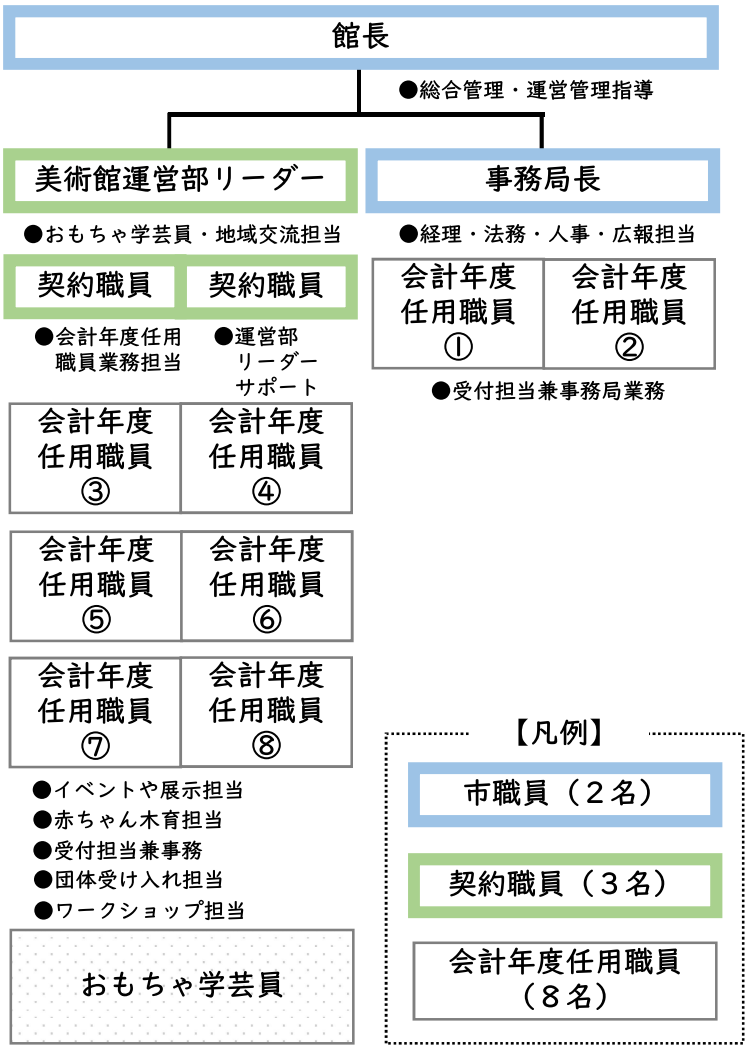
（１）スタッフ(職員・会計年度任用職員・おもちゃ学芸員）構成

館長は、(仮称)富士山木のおもちゃ美術館運営の総責任者となり、美術館経営・組織運営・事業企画等を総括します。

また、館長を総監督として、事務局長と美術館運営部チームリーダーが経理・広報・運営管理・イベント等の監督など、おもちゃ美術館全体の監督となって運営を支えていきます。

館長は、施設運営にかかる経験と実績、さらにはマネジメント力やリーダーシップが求められ、事務局長は、経理や法務等、団体の運営に欠かせない総務業務を担うため、開館から運営が軌道にのるまでは、本市の職員が担当する予定です。

美術館運営部リーダーは、親しみやすい人物で、来館者のみならず、スタッフやおもちゃ学芸員にも気を配れる対人コミュニケーション力が必要となります。



業務分担表（案）

雇用形態	役職	担当業務
市職員	館長	おもちゃ美術館の全体統括
市職員	事務局長	経営・広報のリーダー兼、事業部全体の財務・経営管理 人事（採用・教育研修）等
契約職員	美術館運営部リーダー	おもちゃ美術館内運営統括、地域連携
契約職員	チーフディレクター (おもちゃ学芸員・運営)	おもちゃ学芸員養成・シフト管理 赤ちゃん木育ひろばの展示品・備品管理、接客対応 ※経営・広報チームのサブリーダー兼務：各種講座や イベント等の広報・ＨＰやＳＮＳ運営を担当
契約職員	サブディレクター (イベント・団体受入れ)	幼保園等の遠足、専門学校・大学等の研修、視察等団体対応 館内での手作りおもちゃイベント等の企画担当 館内の展示品・備品管理、接客対応、広報業務のサポート
会計年度任用職員 （計８名）	フロア運営	受付業務・フロアでの接客対応を中心とした業務サポート
雇用対象外 ボランティア	おもちゃ学芸員	「遊びの案内人」として、おもちゃと人、人と人を繋ぐ役目 学芸員それぞれの特技を活かしたり、遊び方がわからないおもちゃの解説をしたりするだけでなく、来館者に遊びの楽しさと喜びを伝承 施設内の定期的な清掃とおもちゃの整理・片付け担当

４－３ 運営方法

（１）入館料の設定

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、全ての来館者の方に対して安心・安全で心を豊かにし、誰もが満足できる良質なサービスや「遊び」を提供するため、有料の施設とします。

入館料は、全国の姉妹おもちゃ美術館や近隣の同様施設の料金を参考にし、市民の意見も聞きながら、今後検討します。

特に、乳児や高齢者の入館料に配慮し、市民割引や団体割引、年間パスポート制度など、多くの方に来館していただけるような料金制度の導入を今後検討します。

（２）入館者数

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館が設置される樹空の森は、豊かな自然環境を強みとし、年間３０万人を超える方が来場をしており、フォレストアドベンチャーや富士山天空シアターを含め、その他多種多様な子供向けイベント開催など、ファミリー層に大変魅力ある施設となっています。

さらに、本市は年間約１,４００万人の人々が訪れ、御殿場プレミアム・アウトレットや御殿場高原 時之栖などの大型誘客施設の存在により、観光交流人口は静岡市に次いで県内２位（令和３年度）の規模を誇ります。

そうした恵まれた環境の中で、（仮称）富士山木のおもちゃ美術館への来館者は、市内のみならず、首都圏を中心とした関東圏を含め、関西圏など広域なエリアからの来館者を想定し、リピーターの割合を高めながら、魅力ある施設の運営に努め、入館者１０万人／年を目指します。

【参考】全国の姉妹おもちゃ美術館（令和４年度）の入館者数

東京おもちゃ美術館	：１２万人	福岡おもちゃ美術館	：１１万人
徳島木のおもちゃ美術館	：１０．５万人	焼津おもちゃ美術館	：７．５万人
讃岐おもちゃ美術館	：５万人	花巻おもちゃ美術館	：６万人

（仮称）富士山木のおもちゃ美術館は、延床面積を約１，０００㎡程度とし、階層は２階建てを想定しています。

建設予定地は、樹空の森の第２駐車場南側敷地（いこいの森）エリア内であり、木材の伐採を含めた造成整備を行い、新築（別棟）で設置すること等を考慮し、２０２６年（令和８年）７月にグランドオープンを予定しています。

以下は、主な工程スケジュールを抜粋して明示しています。

内　　容	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館基本構想策定					
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館内装・玩具設計					
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館測量・造成設計					
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館基本・実施設計					
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館造成工事					
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館建設工事					
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館外構工事					
(仮称)富士山木のおもちゃ美術館おもちゃエリア内装仕上げ玩具・什器製作設置					
おもちゃ学芸員養成講座					
広報計画作成・ツール制作 ＨＰ／ＳＮＳ制作 チラシ制作					
開　館　準　備					
備　　考					７月 開館予定



（仮称）富士山木のおもちゃ美術館整備基本構想

発行：御殿場市　企画戦略部　未来プロジェクト課

〒412－8601　静岡県御殿場市萩原483番地

TEL：(0550)82－4349　FAX：(0550)84－1661